

松江市松江学生等ボランティア養成事業視察に係る出張報告書

事業課 大谷 和真

◆出張期間

2023年2月25日(土)～26日(日)

◆出張場所

・島根県松江市

◆出張者

・事業部 事業課 大谷 和真

◆面会者

- ・松江B&G海洋センター 所長 池内 潤一 氏
- ・ // スポーツリーダー 友田 純平 氏
- ・ // サブリーダー 瀬崎 迪子 氏
- ・ // インストラクター 新宮 聖将 氏

◆学生等ボランティア視察内容

- ・第13回 SKSS杯 松江地区学童軟式野球大会(2日間)
- ・第11回 スポーツ教室卒業大決戦

◆所感

今回、学生等ボランティア養成事業の視察で島根県松江市にお伺いした。松江市には養成研修の同期の新宮氏がおり、BG 事業に協力的である。学生等ボランティア養成事業だけでなく、BG 塾、体験格差事業等を実施していただいている。

まず、艇庫を見させていただいた。艇庫は1981年開設であり老朽化が進んでいる様子だった。艇庫内は古い物品が多いがきちんと整理整頓がされていた。

松江B&G海洋センターは周りを田んぼで囲まれており、風を遮るものがないため風が強く、気温以上に寒く感じた。

水面は水門を隔てた広さ 300m×300m のため池であり、カヌーだけでなくヨットも行われている。池内氏・新宮氏は水がキレイではないので沈しやすい SUP はあまりやりたがらないとのことだった。財団の事業で水面をキレイにする事業をお願いしますと言われていた。私の地元の備前市の水面も山の中の池であり、お世辞にもキレイではないため、水面をキレイにする事業は需要があるかもしれないと感じた。例えば、松江市の宍道湖ではシジミが有名であるが、シジミは水

の汚れの原因である植物性プランクトンをエサとするため水をきれいにする役割を担っている。また、私の地元の備前市では、海をキレイにするために「アマモ」の養殖をおこなっている。アマモは魚やエビ、カニ、イカなどの生息場所や産卵場所となり、海水中の栄養塩を吸収して水質の悪化を防止する役割がある。水辺の活動を実施していく中で自分たちが活動しやすくするため、活動する自然環境を守る必要性を感じた。

体育館は第1と第2があり、第1がメイン、第2がサブであり、第2は元々、武道場として利用しており、現在は武道や太極拳、バトミントン等で利用されている。今回の卒業大決戦では第1を使用した。スポーツ教室卒業大決戦は海洋センターのスポーツ教室に通う5・6年生を対象にして、スタッフVS生徒を毎年実施しており、今年で11回目になる。

生徒はバスケやドッジボール教室に参加しているのでボールの扱いが上手く、私もスタッフチームで参加させていただいたが、全力を出したが合計得点で生徒チームの勝ちで終わった。

学生等ボランティアの参加者は海洋センターから約3kmのところ松江高専があり、その生徒が参加していた。海洋センターでアルバイトしている生徒が5人程度いるので松江高専とのつながりは今後も継続していくと考えられる。

学童軟式野球大会と卒業大決戦ではそれぞれ2名の学生ボランティアが参加した。

学童軟式野球大会は、海洋センターのグラウンドで実施された。グラウンドは元々、農地であるため、水捌けが悪く、前日に小雨が降ったためグラウンド状態と当日も雲行きが不安であったが、何とか無事に開催することができた。

子供たちが楽しそうに野球をしている姿を見て、打つ・投げる・捕るという野球本来の楽しさを私自身思い出すことができた。全国指導者会の講演でもあったが、女子バレーボール元日本代表 益子氏の「怒らない指導」や桐蔭横浜大学大学院 渋谷氏の「勝つことは子供たちの人間教育の方法の1つである」という話があったが、指導する上で、子供たちがスポーツを楽しんでできるように方法を誤らないよう指導していきたい。

2日間視察させていただき、同じ中国ブロックでどのような活動をしているか見ることで参考になった。面白い事業をしようとしても自分一人でする範囲には限界があるので、一緒に取り組める仲間やボランティアをつくる必要性を感じた。

◆写真



松江市海洋センター外観



艇庫



艇庫内①



艇庫内②



水面①



水面②



第一体育館



第二体育館



グラウンド



卒業大決戦開会式



PK 対決



フリースロー対決



フットサル対決



バスケ対決



ドッジボール対決



学童軟式野球大会



表彰式



優勝チーム記念撮影